

宇部市地球温暖化対策ネットワーク 低炭素地域づくり協議会 第2回 議事録

1 日 時 2010年9月17日（金）13時30分～15時30分

2 場 所 総合福祉会館 2階 ボランティア交流ホール

3 出席者（敬称略）

| | | |
|-------|----------------------------|---------|
| 委員 会長 | 山口大学大学院理工学研究科准教授 | 榎原 弘之 |
| | 宇部興産㈱環境安全部長 | 大山 (代理) |
| | セントラル硝子㈱宇部工場環境安全課長 | 竹本 哲朗 |
| | 協和発酵バイオ㈱山口事業所宇部環境安全室長 | 高嶋 則之 |
| | (㈱)エフエムきらら取締役コーディネーター | 田村 知里 |
| | 西日本旅客鉄道㈱山口地域鉄道部企画課長 | 田中 清治 |
| | 船木鉄道㈱専務取締役 | 田中 敬一 |
| | NPO 法人うべネットワーク理事 | 作本 季里 |
| | 宇部商工会議所総務部長 | 佐々木 克彦 |
| | NPO 法人環境共生機構理事長 | 臼井 恵次 |
| | 宇部市交通局交通事業課長 | 大谷 唯輝 |
| | 宇部市市民環境部環境政策課 | 藤永 義昭 |
| | 宇部市総合政策部企画課交通運輸政策班長 | 民谷 有弘 |
| | 国土交通省中国運輸局山口運輸支局首席運輸企画専門官※ | 山田 雅之 |
| | 環境省中国四国地方環境事務所広島事務所長※ | 藤岡 満樹 |
| | 山口県環境生活部環境政策課主任※ | 坂本 聰 |

※オブザーバー
以上 16名

| | | |
|------|---------------------|-------|
| 欠席委員 | ㈱宇部日報社編集局課長 | 古重 周三 |
| | 山口県地域振興部交通運輸対策室室長※ | 賀屋 哲也 |
| | サンデン交通(㈱)自動車部業務担当課長 | 福本 芳博 |

※オブザーバー
以上 3名

| | | |
|-------------|---------------------|--------|
| 事務局 | 宇部市地球温暖化対策ネットワーク 代表 | 中西 弘 |
| | 〃 事務局長 | 仰木 則康 |
| | 〃 事務局員 | 兼久 威矩 |
| | 〃 | 名越 久美 |
| | 〃 | 永山 亜希子 |
| 株式会社バイタルリード | | 宮地 岳志 |
| | 〃 | 田中 曜弘 |
| | | 以上 7名 |

4 報 告

- (1) キャンペーン参加依頼等の実施状況
- (2) キャンペーンの参加状況について

5 議 事

- (1) アンケート調査の集計結果（速報）について
- (2) スマート通勤参加促進方法について
- (3) 徒歩・自転車への通勤手当支給及びスマート通勤促進施策（インセンティブ施策）実施事業所への調査について

6 報告要旨

- 事務局 スマート通勤キャンペーンを9月1日から11月末日まで開催する。現在、事業所ならびに従業員の方々に参加依頼している。方法としては58事業所を対象とした事業者訪問、商工会議所の会報へのちらしの折り込み、ポスターの掲示、宇部日報への広告掲載、FMきららでの放送、ホームページへの掲載を行っている。9月6日現在の参加事業所数は公表してもよい事業所が36事業所。9月10日現在のサポーター参加者は67名である。キャンペーン期間中は随時募集している。
- オブザーバー 事業所が公表を希望しない理由を教えてほしい。
- 事務局 公表してしまうと他の団体から協力依頼がくるようになる為、避けたいとの事であった。
- オブザーバー 認知度はどんな感じになっているのか？
- 事務局 現段階で認知されているのはキャンペーンの協力依頼を行った事業所、従業員等に限られており、市全体で考えるとまだまだ一般の方には知られていない状態だと思う。ただし今回は、昨年実施した宇部日報への広告掲載、FMきららの放送に加え、公共施設、JR駅、商業施設等へのポスター掲載を試みている。昨年度と比較すると一般の方への認知度が増していると期待しているが、今後も改善しながら広報活動を繰り返し実施することで徐々に認知度を高めたいと考える。
- 会長 補足説明だが、前年のアンケートでは宇部日報の記事は認知度が高かったと思う。ポスターに関しては今回初の試みだが一般の方には効果的だと思っている。
- 委員 市の広報には載せないのか？
- 事務局 広報には載せるつもりでしたが期間的に間に合わなかった。

7 議事要旨

■アンケート調査の集計結果（速報）について・スマート通勤参加促進方法について

- 会長 資料（3）の関しては各参加事業所の考えがアンケート結果により見えてくるようになっている。資料（4）に関しては今回のキャンペーンというよりは、もう少し先を考えた時ものになると思う。参加事業を増やしていく、もしくは個人の参加を増やしていく事を考えた時に最終的な計画をこの表に書いていく事になると思う。その際、実行可能な内容が今後の計画にも必要となってくる。
- 事務局 先ほどの広報についての質問だが、広報宇部には8月15日号にキャンペーンの記事は載せて頂いている。先程の回答を訂正する。
- 委員 前回の協議会で民谷委員より意見があったように学校教育で取り組むことが効果的であると考える。それと通勤範囲が3km以内の方には、ほとんどの企業で通勤手当が支払われていないという現状。通勤手当に関しても考えていかなければいけなと思う。
- 事務局 協議会の取組みとしては学校教育に使い易い様な資料を作成することが考えられる。バスに関しては学校教育で既に取り込まれている。活動内容の説明をお願いしたい。
- 会長 バス事業者によるバス教室や市民活動によるバススタンプラリーが行われているが、どなたか説明をお願いする。
- 委員 うべ交通まちづくり市民会議主催で8月28日土曜日に第一回「バス de スタンプラリー」が開催された。親子、ご夫婦など計24名が参加し、宇部市内の琴崎八幡宮、生活安全ふれあい館、ときわ公園・石炭記念館、ときわ公園・ミュージアムなどでスタンプを集めた。
- 会長 個々が環境について自分のこととして考える事が重要。子供が考えると一緒に親も考える事になる。
- 委員 子供と親が一緒に考える時間を提供することが効果的であると考える。
- 会長 最終的な計画はどのような内容が含まれるのか？
- 事務局 本事業では、通勤に関するCO2削減にはどうしたら良いかということを議論し、低炭素地域づくり行動計画を作成しなければならない。昨年度検討した職場モビリティマネジメント、自転車利用促進が含まれる。また、市の方で検討されている計画と調整していく必要もある。
- 会長 ソフト、ハードという点で分けるとどうなるか？
- 事務局 ソフト、ハード両方が含まれる。本事業で作成した計画を市の環境基本計画の地域計画等に位置づけると、事業実施の一部費用について環境省から補助を受けられることになる。実行性を考慮しつつ調整し計画を作っていく必要がある。
- 事務局 参加事業所を増やすには経営のトップに働き掛けないと効果が上がらないというような事ではないかと思うのだが、経営のトップに働き掛ける

- にはどうすれば良いかという提言を頂きたい。
- 会長 これまで主に検討してきたボトムアップアプローチ以外に、今、発言あったようにトップダウンのアプローチが考えられる。トップダウンのアプローチの可能性についてご教示ください。
- 委員 通勤手当は全社的な検討事項となり、宇部の事業所だけでは決定できない。市や県が環境に対する強い姿勢を示してもらい、企業のトップに協力依頼すると良いかも知れない。
- 委員 キャンペーンや学校教育などのボトムアップのアプローチも重要であるが、トップダウンと併せて実施しないと限界があると思われる。
- 会長 事業所として経営上のメリットが発現するパターンとして、駐車場を縮小し、生産性の高い施設を増設すること等が考えられる。

■徒歩・自転車への通勤手当支給及びスマート通勤促進施策（インセンティブ施策） 実施事業所への調査について

- 会長 従業員アンケートの方だが、自転車・徒歩で通勤している方だけが対象か？
- 事務局 今回特にインセンティブに関するアンケートであるため、事前調査の結果でインセンティブが実施されていた徒歩・自転車を対象とした。具体的には、徒歩自転車通勤手当の支給、サイクリングラリーの実施、万歩計の歩数に応じた報酬の支払いなどがある。
- 事務局 ちなみに何事業所を対象と考えているか？
- 事務局 調査規模等を考えると2、3事業所でやらせて頂きたいと思うが、従業員の規模により実質不可能な所もあると思うので可能な所に絞って調査したいと考える。
- 会長 従業員のアンケートについて少し思ったのですが、確かに徒歩や自転車で通勤する理由等は徒歩・自転車通勤の方限定の質問になると思うが、例えばマイカー通勤を抑制する賛否を問う項目に関しては車を利用している方がどんな反応をするかが大切だと思う。そういう意味では車を利用している方にも聞いた方が良いのではないかと思うのだが？
- 事務局 承知した。誰を対象にするかは再考させて頂きたいと思う。事業者の数が多くて不可能な所もあると思うので対象の事業所を選定しマイカー通勤の方も含め、いろいろな意見を集めたいと思う。
- 委員 現行の通勤方法が何で通勤時間が何分で通勤距離が何キロで、その方がどういう条件なら通勤手段を自転車に変えますという事が分かるようなアンケートにしないと集計した後が難しくなると思う。
- 会長 そうですね。おそらく調査対象を全体にすれば結果的に車の方も多く入ってくるので手当が付く、付かない等の質問をした際にどんな反応をす

- るのかを聞く方が良いのかなと思う。
- 委員 アンケートの対象については徒歩・自転車を限定するよりは現在どういう状況なのか、例えば車の人は公共交通等を利用できないのか、どういう条件なら良いのかくらいの質問にしたら良いと思う。アンケート回収について名前を必須にしている事の意味は何かあるのか？
- 事務局 ニックネームでも良いが、ＨＰに公表する際にお名前があった方がしっかり伝わるのではと思ったのとアンケートの一文を公表してもよいかという意味を込めて記入してもらうようにした。必須の部分は削除する。
- 会長 元々、事務局が考えていたのは自転車や徒歩で通勤している人の生の声を取るという辺りの試案だったのか？ もう一つ確認だが、ヒアリングであるとかアンケートの結果というのも最終的に計画に反映していく形にしたいという事でよろしいか？
- 事務局 はい。そのように修正する。
- 会長 それでは事務局からの案につきまして皆様からご意見を頂いたので、事務局におかれてはご意見も検討したうえで修正をお願いする。各事業所の協力をいただきキャンペーンを開始している訳だが、このキャンペーンが成功するように委員の皆様にもご協力頂きたいと思う。今後、最終的な計画作りをしていく事になるので十分議論出来ていない点もあるかもしれないが、今後もご意見等を頂いて最終的には実行性のある計画が作成出来ればと思う。それでは以上をもって本日の議事はすべて終了し事務局の方に進行をお返しする。ありがとうございました。

以上